

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人秋田大学

1 全体評価

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念を掲げており、地域の現実を踏まえた教育研究の場において、優れた人材の育成に努めるとともに、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れるために、他の高等教育機関との連携による柔軟な組織づくりを推進することを目指している。第2期中期目標期間においては、教育の内容と質が国際的に通用する水準を維持するよう努め、時代の諸課題に取り組む人材を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、医学部と理工学部の双方の橋渡しをする医理工連携コースを設置するとともに、国際資源学部において学部2年次生以上の専門教育科目を100%英語で実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、国際資源学の世界的教育拠点を形成するとともに、次世代型学部運営を体現する「国際資源学部」の設置を目指す「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、学部3年次生が実施する海外資源フィールドワークの派遣先の安全性や質を保証するため、「海外資源フィールドワーク委員会」を新設し、派遣先の企業や研究機関の現地アドバイザーと綿密な打合せを重ねているほか、学生の安全を確保した上で派遣するための危機管理体制等について検討している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

社会の変化に対応した組織づくりとして、新しい医療機器の研究開発をするとともに、秋田県の産業発展に貢献できる人材の輩出を目指す「医理工連携コース」を開設している。また、学長選考会議において監事陪席の下、前年度の学長の業績確認を行うとともに、確認した評価結果を大学ウェブサイトに掲載している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地方創生に向けた一元的な支援体制の整備

地域を担う人材育成を推進し、地域の産業振興の活性化に貢献することを目的とした地方創生センターの設置を決定したことに伴い、地域創生課（地域貢献事業担当部署）と学術研究課（産学連携・研究協力担当部署）を統合し地方創生・研究推進課とし、地方創生センターの活動を一元的に支える体制を整備している。

○ 透明性の高い大学運営の推進

構成員の約半数を学外委員とし、教育課程の編成方針や教員候補者の推薦、予算や組織運営に関する重要事項を審議する「教育研究カウンスル」及び「運営カウンスル」を全学部・研究科に導入し、ステークホルダーの意見を取り入れつつ透明性の高い大学運営を推進している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 科研費獲得に向けた民間URA機関からの講師の招へい

科研費獲得額を増加させるため、民間URA機関から講師を招へいし、申請書の書き方セミナーを初心者向けと連続採択者向けに分けて開催するとともに、申請率を向上させるため、応募資格者に対する啓発活動を行った結果、獲得金額は過去最高となる約5億5,000万円となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 積極的・網羅的な情報発信をする体制整備

学内外の諸活動を積極的に発信する観点から、広報課から各部局等にイベントレポートのフォーマットを提示し、大学全体の活動内容を網羅的に情報発信できる体制を整備した結果、文部科学関係情報誌への掲載は対前年度比で約30%増加（平成26年度：56件、平成27年度：73件）している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(平成26年度評価において指摘した重大な改善事項への対応状況)

- 新たに任命された監事（公認会計士）が役員会に毎回陪席することで、役員会の内部牽制体制の強化を図るとともに、内部監査において現地監査に監事が立ち会い、モニタリングを実施して内部監査の信頼性を担保している。また、「事務協議会」や「財務・施設連絡会」において情報共有及び意見交換を行い、その内容を役員ミーティングへ報告することで事務組織間における課題や情報を共有し円滑な事務運営を推進している。引き続き、社会からの信頼回復に向けてあらゆる面で努力することが期待される。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域医療の発展及び産業創出等に向けた医理工連携コースの設置

地域医療の発展と産業創出等に貢献する研究者、技術者、コーディネーターとして活躍できる人材を育成するため、医学部と理工学部の双方の橋渡しをするプログラムとして、医学系研究科医科学専攻と工学資源学研究科博士前期課程に医理工連携コースを設置している。

○ 男鹿なまはげ分校における地域貢献活動の展開

男鹿なまはげ分校において、男鹿市民の健康増進に寄与する取組として、健康寿命の延伸を目指した「ニコニコ体操塾健康講座」を男鹿市との共催で継続的に開催するとともに、生活に身近なテーマを取り上げた健康講座と認知症講座を計15回開催している。また、この分校が中心となって首都圏大学の体育系クラブの合宿を男鹿市に誘致することにより交流人口を増加させている。

○ 新たな海外拠点の設置

インドネシアの協定校であるトリサクティ大学及びハサヌディン大学内に「共同研究室」を開設し、教職員及び学生が教育研究活動を行う際の活動拠点とするとともに、平成28年度から始まる国際資源学部の海外資源フィールドワークにおける派遣先としても有効活用することとしている。

○ グローバル化に対応した教育体制の構築

国際資源学部において、外国人教員による英語での理数系基礎教育科目や留学生を交えたプレゼンテーション授業を取り入れた少人数クラスによる集中大学英语（I-EAP）を実施するとともに、2年次以上の専門教育科目を100%英語で実施するなど、グローバル化に対応した教育体制を構築している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 臨床研究支援体制の構築

人を対象とする医学研究、再生医療技術を用いて行う医療、治験、製造販売後臨床試験及び製造販売後調査の適切な実施のため、「臨床研究支援センター」を設置し、医師主導の治験に係る業務規程の作成やモニタリング・監査体制を構築するなど、臨床研究に係る総合的な管理・支援を実施している。

（診療面）

○ 腎疾患診療の向上に資する取組

「腎疾患先端医療センター」において献腎移植に24時間対応できる移植検査体制を整えており、1件の腎移植が実施されているほか、遺伝子多型に基づいた免疫抑制薬初期投与量の個別医療設計を行うなど腎移植の質向上に努めている。また、透析患者を減少させるための地域医療連携として、秋田県医師会及び秋田県薬剤師会の協力の下、県内腎臓内科医と市民公開講座を開催するなどの共同事業を行っている。

(運営面)

○ 増収・経費節減に関する企画立案

経営面のサポート体制の整備充実を図るため、病院長のリーダーシップの下に設置した戦略企画室において、使用頻度の高い医薬品13品目の後発医薬品への切替えや手術に関する原価計算を実施するなど、各種経営データ分析による増収・経費節減に関する企画立案を行っている。